



# てらる



2017年  
**12**月  
No.840

■発行所 ■  
日本福音ルーテル教会事務局広報室  
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1  
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <http://www.jelc.or.jp>

■E-mail ■ [jelc@jelc.or.jp](mailto:jelc@jelc.or.jp)

■発行人 ■ 安井宣生 koho06@jelc.or.jp

■印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社

■定価 ■ 1部 40円 (郵税を含む)

■振替口座 ■ 00190-7-1734

## 説教 「一人の歌声にあなたの歌声を合わせよう」

神戸教会、神戸東教会、西宮教会 牧師 松本義宣

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」

(ルカによる福音書2・14)

その夜、天使と天の大軍が賛美しました。「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」神にあれ、人にもあれ。「あるように」という願望や祈りのようです。まだ無いから「あるように」なのでしょうか。

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」と訳すのは単なる慣習で、元々は「いと高き所には神に栄光、地にはみ心に適う人に平和」という名詞だけです。むしろ、天使のお告げですから、「ある」との宣言のようでもあります。

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」が天使たちが歌う「平和」であり、それが御心に適う人にある。

私を、隣人を造られた。真の平和のために、私たち一人一人が造られ、栄光を現わすために私たちがいる。そう天使は告げます。天の栄光と地の平和はそこで実現する。その意味で、逆に、天使ではなく私たちが真剣に祈り、行動すべきです。「地には平和あれ。そして天の栄光が実現されますように」と。

ドイツに「クリスマスの天使の歌」というお話があります。

『クリスマス、天では天使たちの賛美が響いていました。しかし、一人の天使がその歌声に加わっていませんでした。それに気づいた聖ペトロはその天使を呼んで尋ねた。「どうして君は歌わないのだい?」。天使は答えた。「戦争やテロ、抑圧や貧困、病や孤独が満ちている時に歌っている場合じゃないでしょう。とてもそんな気になれません。すると聖ペトロは「それなら君はここにどどまっとないで地上に行くべきじゃないかな」と言う。天使は地上に降り、最悪の状況を見て回った。誰も歌ってはいなかった。人々はお金がなく苦しいとか、仕事がないか、あればあったで悩みが尽きないと語り合っていた。人間は憂慮すべきことばかりを話し、誰もが歌を歌う氣力を失っていた。ところが天使は、ある通りでたった一人歌っている人を見つけた。天使はその人に尋ねた。「こんな時になぜ歌えるのですか?」。その人は答えた。「世界を見回してごらん。戦争、テロ、抑圧、貧困、それに孤独。でも、だからこそ私は歌うのだ。困窮に対し、闇に対し。この世を支配する暗闇に私は歌声を上げないではいられない。」天使は言った。「君と一緒に歌わせてもらえなにかい?その歌声を二つにしたいから。』

平和のために、私たち一人の力は本当に小さいものです。何をやるか、どうすべきか途方に暮れます。しかし、最初の一人にはなれなくても、見渡せば私たちの隣に、既に歌い出している誰かの歌声がある。私たちはそこに歌声を合わせることが出来るので、三つ、四つにしよう」と。

「反日」という言葉は、全体化する力によって発せられるものではないでしょうか。

岩切雄太  
門司教会、八幡教会、佐賀教会、小城教会牧師



確かに今は「地には平和」とあるように思えない。しかし、「いと高きところ」「つまり神様のところにも「栄光あれ」というのはどういふことなのでしょう。神の栄光とは、神様のすばらしさのことです。それとも「あれ」と願うべきものなのか。天の使いの賛美としては奇妙です。

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」が表し、実現させるのです。神の栄光は、その子とされた御心に適う者が実現させる平和によって現れる。むしろ「地には平和がある。それが天の栄光を現わす」のです。そのために、神様は救い主を、地の平和として贈られたのです。それだけではない。平和の実現のために、あなたを

上に降り、最悪の状況を見て回った。誰も歌ってはいなかった。人々はお金がなく苦しいとか、仕事がないか、あればあったで悩みが尽きないと語り合っていた。人間は憂慮すべきことばかりを話し、誰もが歌を歌う氣力を失っていた。ところが天使は、ある通りでたった一人歌っている人を見つけた。天使はその人に尋ねた。「こんな時になぜ歌えるのですか?」。その人は答えた。「世界を見回してごらん。戦争、テロ、抑圧、貧困、それに孤独。でも、だからこそ私は歌うのだ。困窮に対し、闇に対し。この世を支配する暗闇に私は歌声を上げないではいられない。」天使は言った。「君と一緒に歌わせてもらえなにかい?その歌声を二つにしたいから。』

全体化する力とは、例えば「私」という主体を「日本人」として全体の一部にして意味付けてしまうことです。だから、戦時中の「非国民」、最近よく耳にする「反日」という言葉は、全体化する力によって発せられるものではないでしょうか。

「Merry Christmas」と他者に呼びかけ他者を迎えられる日であり、そして、それこそが全体化する力に抗することだからではないでしょうか。



「Merry Christmas」と他者に呼びかけ他者を迎えられる日であり、そして、それこそが全体化する力に抗することだからではないでしょうか。

「Merry Christmas」と他者に呼びかけ他者を迎えられる日であり、そして、それこそが全体化する力に抗することだからではないでしょうか。

「Merry Christmas」と他者に呼びかけ他者を迎えられる日であり、そして、それこそが全体化する力に抗することだからではないでしょうか。

2017  
1964  
1517

Reformation 500th

宗教改革500年共同記念・配信映像

2017年11月23日に長崎のカトリック浦上教会において、日本福音ルーテル教会と日本カトリック司教協議により共同主催されたシンポジウムと礼拝の様相をビデオでご覧いただけます。

URL  
<https://luther500.wixsite.com/commemo>



議長室から

とか「次」という意味です。この言葉には、記念事業を終えた「後」が重要だという思いが込められていますが、もうすぐクリスマスを迎えることとなりますが、宗教改革500年後の最初の重要な行事となります。

かが重要です。500年事業を経た私たちルーテル教会では、宗教改革者たちが説いた聖書の福音がしっかりと語られることが期待されています。さらに言えば、ルターやルーテル教会にとっての

なにか、あるいはルーテル教会の特徴的な教えに根源があるからなのか、また学問的に裏付けられた解説を読んだことがありません。しかしとても重要な指摘であると思います。なぜなら、いま世界中で課題となっていることのひと

を思い起こすことは意義深いと思うのです。占星術の学者たちのこと。ベツレヘムの輝く星に導かれ幼子イエスに出会い、彼らは宝物を献げました。この行いは、貧しい人たちに自分の富を分配した行為だと言います。そしてこの宝物が、ヘロデの迫害を避けてエジプトに避難した聖家族の生活を助けたに違いないと説くのです。

カトリックと宗教改革500年②  
世界のカトリック教会とルーテル教会による宗教改革500年記念

Conflict to Communion  
邦訳『争いから交わりへ』を発表しました。

者たちが、イエス・キリストの福音を共に証しし、神の救いの働きを受け入れるべく人々を招くようになることを。わたしたちは共に奉仕の務めに立つて、特に貧しい人々のために、人間の尊厳と権利とを高め、正義のために働き、あらゆる形の暴力を拒否することに於いて共に奉仕に当たることのできるよう、霊の導きと勇気と力とを神に祈ります。尊厳、正義、平和と和解を切に求めているすべての人々に、わたしたちが近づくと神は呼びかけておられます。暴力や過激主義を終わらせるよう、わたしたちは声を挙げねばなりません。知らない人々を受け入れ、戦いや迫害のゆえに逃れることを強いられた人々に助けの手を差し伸べ、難民や亡命を求める人々の権利を守るよう、共に働くことを強く求めます(ルンドンにおける共(同)声(明)より)

## ポスト宗教改革500年

総会議長 立山忠浩

待降節(アドベント)に入りました。クリスマスを迎えるための準備の期間となりますが、市井の暦に先立って教会の暦は新しくなりました。宗教改革500年の2017年が終わり、新たな歩みが始まったこととなります。

日本では、人々の目が教会に向けられる唯一の時がクリスマスだと言われます。礼拝堂の椅子が一年で最も埋まるのがクリスマス・イブ礼拝という教会も多いことでしょう。まさに一大行事です。そこで語られるメッセージは何

何かを問い、それを今日の教会に届けられる唯一の時がクリスマスだと言われます。北欧やドイツでは社会福祉制度が他国に比べ充実し、しかもそれらの国はルーテル教会を中心としていることを指摘する社会学者がいます。偶然

つが貧富の差であり、偏った富をどのように分配するかということだからです。社会福祉制度の充実はこの課題の行政的な取り組みなのです。ここでこれ以上立ち入ることはできません。ただルターのクリスマスの説教

ルターのこの説教が今日も耳を傾けるべき重要なメッセージであるように、彼の言葉はいつも時代に問いかけられます。私たちの宣教の言葉もそうでありたいものです。

ローマ・カトリック教会とルーテル教会は、宗教改革を共同で記念するという過去に前例のない取り組みを世界各地で進めています。かつて激しく対立した両者が、いまや一致と協力のためにひとつのテーブルを囲み、その声を世界に届けようとする気運が高まっています。2013年には共同文書『From

ルンドン声明  
2016年10月31日には、ローマ・カトリックのフランシスコ教皇とルーテル世界連盟のユナシオン議長が、この記念の年の幕開けとして、ルーテル世界連盟発祥の地であるスウェーデンのルンドン大聖堂において共同の記念を行いました。

カトリック教会は、日本のカトリック教会の皆さんに宗教改革と長崎での500年共同記念の意義を知らせるため、リーフレット『カトリックと宗教改革500年』(発行:カトリック中央協議会制作・宗教改革500年記念行事準備委員会)を作成されました。編集責任を負われた光延一郎神父(イエスス会・上智大学教授)よりご提供いただき、紹介いたします。

## 2017年『宣教会議』報告

事務局長 白川道生

「宣教会議とは決議をする場ではなく、課題から目をそらさずに向き合い、認識を共有して、どのような対策が必要なのかを皆で議論する、具体的な取り組みの方向やアイデアを見いだすのが狙い」。

立山忠浩総会議長から会議の趣旨説明が述べられた後、第27期では2回目となる宣教会議は始まった。9月26(27)日の

2日間にわたり、各教区の常議員並びに全体教会四役、信徒選出常議員と各室長、教職・信徒の22名が東京のルーテル市ヶ谷センターに集まった。

協議は、セッションを五つに区切り、それぞれに発題者をたて、テーマを巡って参加者全体での討議とした。全体を通して「第六次総合方策」の目標項目を確認し、開始した2012年からここ

める、礼拝式文の「典礼曲」の協議。  
・日本福音ルーテル教会にとって「これからの海外宣教」の在り方をどうするのか。  
・教会任命の教職人数の推移予測と教職態勢。  
・教職の人事、全国を見渡した教職配置、個教会の財政自給力と招聘のバ

・日本福音ルーテル教会の「ポスト宗教改革500年」等々となった。  
とりわけ、前回総会で使用が承認された「礼拝式文」の文言につける典礼曲の制作が式文委員会によつて進められており、本会議では、製作中の4種の曲を聞いて、しばし全体での意見交換も行った。

最後のまとめでは、出席者全員がそれぞれに、2日間の討議からの感想や対策アイデア等が述べられたが、苦難を通しても連帯が想起できる、教会論に「ひとつ」を標榜する、ルーテル教会らしさが感じ取られる時間となった。

この会議を通して共有された課題への意見や方向性を含んで、対策が常議員会に求められていくことになる。

また、各教区長からそれぞれの教区が展開している宣教の現状、講じている対応に関して、予め準備された資料を基に発表がなされた。総じて苦闘する教会の様相であったが、共有する課題を見

取り扱った内容は、  
・式文委員会が作業を進

「兼務」を巡る基本認識。  
・引退教師にかかる牧会委嘱の規則と課題予測。  
・専任教師のいない教会の拠出金規則に関して。

また、各教区長からそれぞれの教区が展開している宣教の現状、講じている対応に関して、予め準備された資料を基に発表がなされた。総じて苦闘する教会の様相であったが、共有する課題を見



「わたしたちは神に祈ります。ローマ・カトリックの者たちとルーテルの



「わたしたちは神に祈ります。ローマ・カトリックの者たちとルーテルの



### 2017年 宗教改革500年 「カトリックとルーテルの 共同声明」に学ぶ

⑤ 石居基夫  
(日本ルーテル神学校校長)



【本文から】  
●キリストにあつてはひとつ

この喜びの時に、わたしたちは、世界のキリスト教諸教会や交わりを代表してここに同席し、わたしたちと祈りを共にしているわたしたちの兄弟姉妹にわたしたちの感謝を申し上げます。争いから交わりへ進むと取り組むに当たって、わたしたちは洗礼によってそこに加えられている、キリストのひとつのからだの一部としてそうしているのです。わたしたちはわたしたちの努力を思い起こさせ、また、わたしたちを励ましてくださるよう、

エキュメニカルな同志にお願いします。わたしたちはこの同志に、わたしたちのために祈り、共に歩み、今日表明している、祈りを込めた努力を生き抜くに当たってわたしたちを支え続けてくださるよう求めます。

#### 【学び】

この声明は、カトリックとルーテルの50年にわたる対話がそれぞれの取り組みにおいて成果を積み上げてきたことの結果と

年には世界教会協議会(WCC)の発足となる。信仰職制委員会には、発足当時から実はローマ・カトリック教会からのメンバーを正式に迎えていて、教会一致のための神学的な学びを積み重ねてきたのだ。

して産み出されたものだ。異なる二つの教派という事だけではなく、ある意味で歴史のなかで最も激しく争い、キリスト教西欧世界を二分するような結果をもたらした両教会が、こうして今、この記念の年に共同して一つの声明を現すことになったことは意義深い。

しかし、こうしたエキュメニカルな交わり、その対話と和解、共同ということとはカトリックとルーテルという2教会間だけのものではない。むしろ20世紀はエキュメニズムの世紀であるといわれるほどに、世界のキリスト教が対話を重ねて、具体的な協力関係を作ってきたし、一致に向けての成果も産み出してきた。

1910年の世界宣教会議(エディンバラ)、1921年の国際宣教師協議会(IMC)結成、1925年「生活と実践」委員会、1927年「信仰職制」委員会など、プロテスタント教会間での教派をこえた交わりと共同が進み、第二次世界大戦を経て、1948



年には世界教会協議会(WCC)の発足となる。信仰職制委員会には、発足当時から実はローマ・カトリック教会からのメンバーを正式に迎えていて、教会一致のための神学的な学びを積み重ねてきたのだ。

あるいはまた、19世紀から続いていたカトリック教会での典礼復興運動はプロテスタント諸教会にも影響し、礼拝についての学びと実践が教派を超えてなされていくようなことも起こっていた。そして、特筆すべきは1982年に公にされたリマ文書、BEM文書が産み出されたことだ。これは、WCCに加盟する各教派の

洗礼(Baptism)  
聖餐(Eucharist)  
職務(Ministry)

に関する神学的な違いを乗り越えていくための対話を重ね、相互理解と受容を推し進めて、ここまでは一つの理解に到達しているという収斂させた成果を公にしたものだ。(つづく)

### 宗教改革500年 合同修養会in北海道

北海道特別教区長  
岡田 薫

10月8〜9日に「宗教改革500年合同修養会in北海道」が行われた。道内にある日本福音ルーテル教会と日本ルーテル教団の教会が合同でこのよ

うな会を催すのはまさに四半世紀ぶりのことである。遠方からの参加者は宿泊が必須となるため、会場を教会ではなく宿泊可能な施設(札幌市保養センター駒岡)とし、39名

の兄弟姉妹が前夜祭さながら親睦と交わりの時を楽しんだ。フレッシュパスターズによる夕べの祈り、続く夕食交流会では大皿料理を分け合いグラスを傾け合いながら和気あいあい。ことに生演奏での「さんびか大会」は大盛況であった。

9日には、藤女子大学の阿部包教授から「パウロの福音理解の変遷」と題して講演をいただいた。信仰義認とは私たちの行いや業績としての信仰ではなく、真の人であったイエスの神に対する信仰とその恵みを受け入れることであること。イエスもパ

ウロもルターも「信仰」というとき、それは愛を通して働く信仰、つまり信仰とは愛の業なしにはない(信仰を与えられた者たちは愛の業へと押し出される)ということを伺った。また、記念礼拝には日本聖公会の広谷和文司祭(旭川聖マルコ教会)を説教者として迎え、「宗教改革500年を記念する」ということは、祝い事ではなく、むしろ私たちが当時の教会の墮落と教会の分裂に痛みを覚えることであり、いま改めて各々が自己義認と闘い、プロテスト(抗議)することの大切さを心に刻むためである。



### 九州教区・ 宗教改革500年

九州教区長 小泉 基

10月28日と29日、台風近づく熊本地区において、九州教区における宗教改革記念行事が「真理はみんなを自由にする!」をテーマに、にぎやかに開催されました。

九州ルーテル学院の大学チャペルを会場に、まず講演会から記念行事がスタート。江口再起先生による「宗教改革の現代的意義」と題された講演では、500年前のルター

の兄弟姉妹が前夜祭さながら親睦と交わりの時を楽しんだ。フレッシュパスターズによる夕べの祈り、続く夕食交流会では大皿料理を分け合いグラスを傾け合いながら和気あいあい。ことに生演奏での「さんびか大会」は大盛況であった。



ターの宗教改革がどのよ

うにわたしたちの苦悩とつながり、そこに力を与えるものとなっていくのが、深い洞察のうちに語られました。

続いて、メンデルスゾーン作曲による交響曲第5番「宗教改革」の記念演奏会。演奏は、熊本でオペラの上演に取り組んでいるラスカーラ・オペラ管弦楽団です。31名という小編成のオーケストラながら迫力のある演奏で、第4楽章で「神は我がやぐら」の旋律が高らかに響き渡ると、聴衆の顔がひととき輝いたようでした。夕刻から大学食堂

に会場を移しての前夜祭。九州各地から参集した教会員をはじめ、カール・フォン・ヴェアテルン駐日ドイツ大使夫妻や熊本市の多野副市長といったゲストも共に、和やかに祝祭の食卓を囲みました。

